人物

依頼を頼む村長

堅物マジメな主人公

爆発力ある明るいお供

ナルシストで見下し上手なお供

マイペースで仲間思いなお供

〇自宅・部屋(朝)

ハンターNo1など自分が一流ハンターを目指したい雰囲気がわかる部屋

寝ているところから起きる

自分の武器や装備を整備しながら主人公の自己紹介

主人公「俺は主人公。…」

そこに村長が登場し依頼を頼む。ついでにお供をつけてもらう

村長「巨大モンスターを倒してほしい」

主人公「ふっ(嬉しそうに笑う)ついにこのときがきたか」

村長「嬉しそうだな！まあそこそこ骨のある相手でだからお前に仲間をつけておこう」

主人公「仲間？そんなものはいらない。俺は一人でも強くなれるそしてこれからもだから俺には必要ない。」

村長「そう言わずに仲間とともに戦うことで何か学べるところがあるかもしれんぞ」

窓の外で仲間が待っている

明るいお供は武器の整備していたところ自宅から人が出たことに気づき手を振る

ナルシストは笛を吹いている

マイペースは壁に向かって的当ての練習をしている(全弾当たっていない)

〇狩場・洞窟内部 (朝)

暑さでマイペースが少しヘトヘトな状態で到着

主人公の地形及び作戦説明

主人公が作戦説明している間明るいお供が辺りをカメラをさいぎって見回す

主人公「ここいらは砂漠が土地のほとんどを占めているそんな中、暑さや食料を求めて日陰があり植物があるここに集まるモンスターが多い。あいつは洞窟の向こうで休んでるはずだ。そして野生の動物は血の匂いをたどり集まる習性がある。あいつも臭いを求めてここに来るだろう」

ナルシスト「へぇ～詳しいんだね。流石一流ハンター。あっまだなってなかったけ？」

主人公「…。今からやってもらうのはあの草食系モンスターを倒し臭いで呼び寄せる。言っとくが俺はチームワークなんてのはごめんだ。(刀で指す)あのデカいのを倒す。お前らは周りのを倒しとけいいか？」

お供たち「はーい」「へいへい」「あっはい」

主人公「おし、行くぞ！」

主人公と草食系モンスターとの戦闘

無傷で倒し振り向くと三人とも手こずってる様子(主人公目線)

明るいはタル爆弾をせっせと運ぶ

ナルシストは笛を吹いて敵をおびき寄せる

マイペースは弓を頑張って当てようとするが外しまくり

主人公「ったくこんなザコも倒せねーのか？オラァさっさとどけ！」

主人公が向かったところでナルシストに踏みつけられる

踏みつけられた先に落とし穴に引っかかる。

その後明るいお供がタル爆弾に向かって玉を発射！

主人公と敵モンスターを巻き込みながら爆発。敵は撃破

明るいとマイペースはハイタッチをする。

ナルシストは少し主人公を見下す

ナルシルトの怒りを買い殴りかかろうとしたとき鳴き声が聞こえ依頼モンスター登場

主人公「待ってたぜ。この時を。おいお前ら手出すんじゃねーぞ」

最初に一対一で戦い。最初は互角だったが後半苦戦を強いられる。

暇だったから突っ走って罠を仕掛けまくる明るいお供

明るいお供をサポートしようとサポートするマイペース

楽しそうに突っ走るナルシスト

主人公はマイペースの弓矢を喰らったり、ナルシストにヘイト扱いされるように誘導されたり、明るいの設置したスタンボムに引っかかり巻き沿いを喰らってさらに巨大モンスターの追撃を喰らってボロボロ

明るいお供は調子に乗りすぎて返り討ちにされてしまう

ナルシストは主人公の後ろに隠れてモンスターに気付かれる音を出す。スキがあれば殴る

主人公と明るいがピンチなのでナルシストはマイペースに身を隠すように指示。

ナルシストはモンスターのおびき寄せる時間を稼ぐ

〇狩場・崖近く(昼)

うまく身を隠し二人の回復をマイペースがする

ナルシストが戻ってきて主人公が怒りをぶつけようとするが力が出ない

ナルシストが力が出ない状態を見て主人公を見下す

ナルシスト「けど村長から村で一番強いって聞いてたけど・・・」

ナルシスト「村一番のくせに大したことないんだね」

マイペース「ナルシストさんそんな言い方…」

主人公「俺を誰だと思っていやがる」

マイペース「い今は無茶は…」

主人公「俺に時間をくれ」

主人公は崖の近くで瞑想の構えをとる

主人公はさっきまでの相手の特徴味方の特徴を分析して答えを切り開く

再び巨大モンスターの場所に向かう

爆発してやったと見せかけてまだ生きている

最後に主人公が一発刀をスイングして倒す

主人公「俺は一流ハンターを目指す男だからな！」